

第4回2026登録送電線工事基幹技能者講習

公開資料1 講習修了者（合格者）の認定

公開資料2 合否判定基準

公開資料3 試験問題別の正答率および、試験問題

講習修了者（合格）の認定

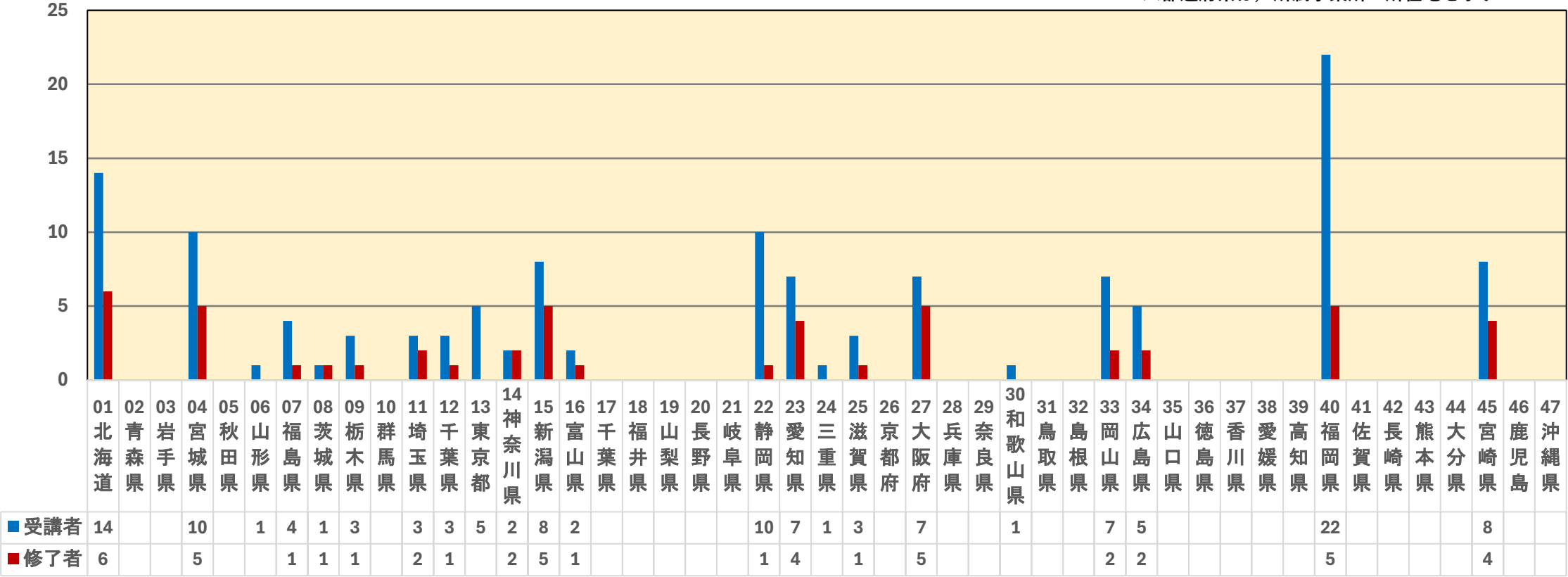
講習区分	受講 認定者	講義 (e-ラーニング)		試験 (テストセンターでCBT)				講習修了 認定者数	備考
		履修区分	人数	欠席者	受験者	得点			
						60点以上	60点未満		
講義免除 (前年講義修了・試験不合格)	27名	免除	27名	1名	26名	10名	16名	10名	
新規講習	94名	修了	90名	—	90名	33名	57名	33名	
		未修	4名	1名	3名	—	3名	—	
		(小計)	(94名)	(1名)	(93名)	(33名)	(60名)	(33名)	
補足学習 (前年講義未修・試験合格)	6名	修了	6名	—	試験免除	—	—	6名	
合計	127名		127名	2名	119名	43名	77名	49名	

※講義免除は、新規受講者で、講義修了＋試験不合格だった場合に、翌年のみ与える措置
※補足学習は、新規受講者で、講義未修（わずかな範囲のみ未修）＋試験合格だった者が、翌年に未修範囲を修了した場合に、講習修了とする措置

第 4 回2026講習の都道府県別・講習修了者

第 4 回講習 受講者数127名 修了者数49名

※都道府県は、所属事業所の所在地を示す

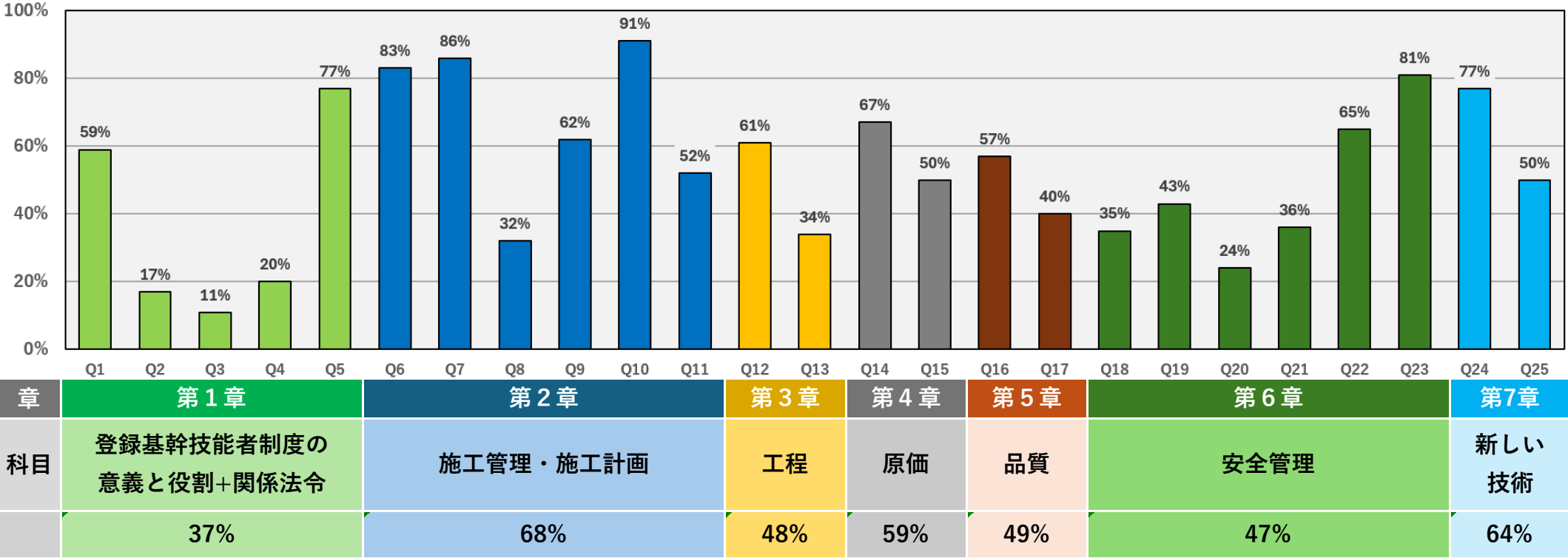


合否判定基準

項 目	合否判定基準
講義（e-ラーニング）	e-ラーニングの全動画について、所定の時間受講した者を講義修了者とする
試験（CBT）	得点が60点以上の者を合格とする。
講習修了者（合格者）	講義および試験のいずれにも、合否判定基準を満たす者を講習修了者（合格者）に認定する

試験問題別の正答率（受験者数119名）

設問別・正答率（N：119）



登録送電線工事基幹技能者

残り時間 59:46

28問中1問目

試験終了

問1

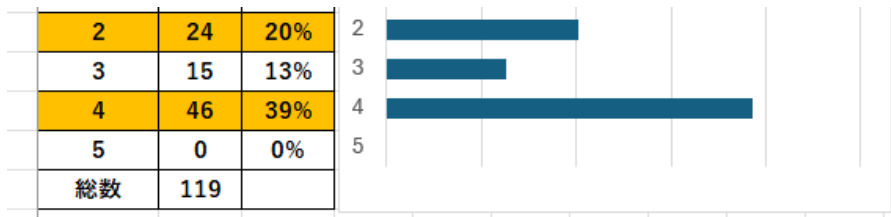
第1章登録基幹技能者制度の意義と役割から、**建設業法等における送電線工事の位置付け**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- 建設工事の内容及び例示と建設業の許可区分において、送電線工事が該当する建設工事の種類は「電気工事」および「とび・土工・コンクリート工事」である
- **建設業種の区分において、送電線工事は「電気工事業」および「とび・土工工事業」に該当し、その内訳として「建設工事の内容（告示）」に示されている「送配電設備を設置する工事」に該当する**
- 登録送電線工事基幹技能者は、電圧7,000Vを超える特別高圧架空電線路の工事を担う技能者が対象である
- **登録電気工事基幹技能者は、低圧・高圧設備（建物関連設備）の工事を担う技術者が対象である**

後で見直す

前の問題

次の問題



正解：「建設工事の内容（告示）」に「送配電設備を設置する工事」と示されているのは「電気工事業」である。

「とび・土工工事業」の「建設工事の内容（告示）」には「鉄骨などの組立て等を行う工事」「土砂等の掘削、盛上げ、締固め等を行う工事」などが示されている。

正解：設問にある「送電線工事の位置付けに関する記述として、最も不適当なものを・・・」から、選択肢4番目の「登録電気工事基幹技能者は、・・・」も不適当であるため、追加して正解とする。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 58:44

28問中2問目

試験終了

問2

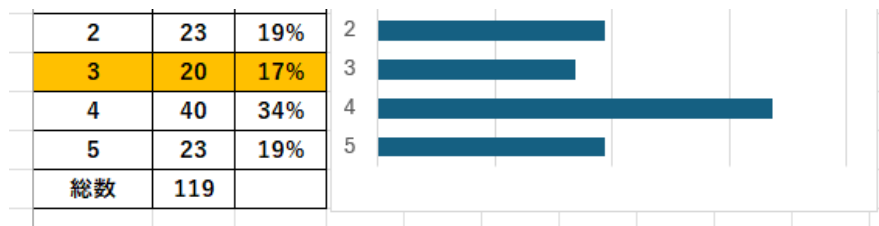
第1章登録基幹技能者制度の意義と役割から、登録送電線工事基幹技能者に求められる能力に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☐ 電気工作物の知識を有し、現場施工に精通し機械工具の選定・作業方法・手順等を熟知した能力
- ☐ 鉄塔の基礎工事から鉄塔組立・架線工事までの一連の作業ステップを理解し、段取り良く作業ができる能力
- ☐ 工事現場の周辺環境・立地条件を判断し、それに適合した工事工程を選定できる能力
- ☐ 災害復旧工事など緊急を要するときは、臨機応変に作業工法を変更できる能力
- ☐ 現場の作業を効率的に行うために、技能者の適切な配置等が行え、グループ内の技能者への指示・指導ができる能力

後で見直す

前の問題

次の問題



正解：工事現場の周辺環境・立地条件を判断し、それに適合した **作業工法** を選定できる能力

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 58:02

28問中3問目

試験終了

問3

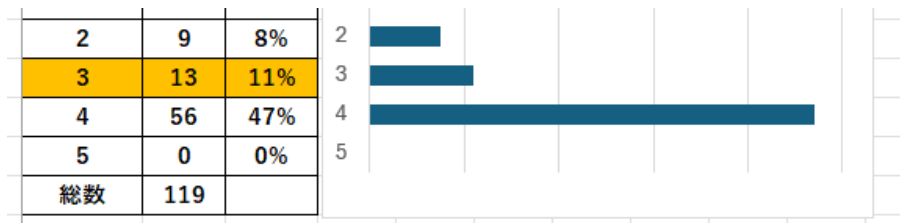
第1章登録基幹技能者制度の意義と役割から、**自己啓発のポイント**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☐ 自己啓発に取り組むことで、自分が成長していることを実感でき、目標に向かって近づいていることを確認することができる
- ☐ 山本五十六の名言から、やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ
- ☒ 山本五十六の名言から、話し合い、耳を傾け、指導して、任せてやらねば、人は育たず
- ☐ 山本五十六の名言から、やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず

後で見直す

前の問題

次の問題



正解：山本五十六の名言から、話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 57:37

28問中4問目

試験終了

問4

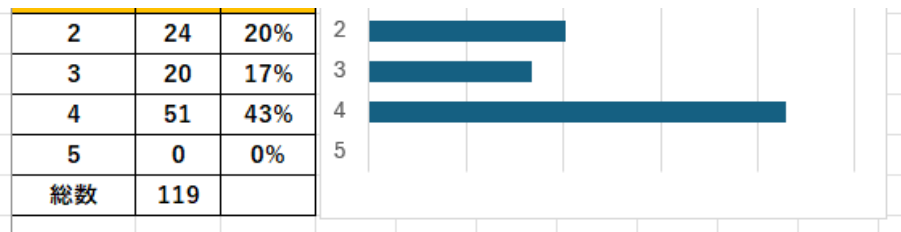
第1章登録基幹技能者制度の意義と役割から、横浜市都筑区のマンションにおける施工不良等に関するコンプライアンス違反が生まれた背景に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☒ この事件の背景として、関係者の責任が不明確であったことや、元請・下請ともに電流計データ等の報告ルールを守らなかったことが指摘されている
- ☐ 工事のデータは建設物の安全・安心の基礎となる重要な要素であり、データの流用は決してあってはならない行為であることを工事関係者全員が理解しなければならない
- ☐ 自分たちの都合を優先し「このくらいごまかしてもいいだろう」と、手を抜いてしまったために、「決められた手順で確実に施工する」というプロの意識を見失ってしまった結果といえる
- ☐ 建設工事は社会的な影響が大きな仕事であることを認識し、登録基幹技能者として、プライドとプロ意識を持ち仕事に取り組むことが大切である

後で見直す

前の問題

次の問題



正解：この事件の背景として、関係者の責任が不明確であったことや、元請・下請ともに電流計データ等の報告等のルールを定められていなかったことが指摘されている。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 57:17

28問中5問目

試験終了

■ 問5

第1章補足関係法令編から、**下請けの主任技術者の職務**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- 施工計画：元請が作成した施工計画書等に基づき、請け負った範囲の建設工事に関する施工要領書等の作成、及び元請等からの指示に応じた施工要領書等の修正
- 工程管理：請け負った範囲の建設工事の進捗確認、及び安全協議会等への参加
- 品質管理：請け負った範囲の建設工事に関する立ち会い確認（原則）及び元請（上位下請）への施工報告
- 技術的指導：請け負った範囲の建設工事に関する作業員の配置等法令遵守の確認、及び現場作業に係る実地の技術指導

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：工程管理：請け負った範囲の建設工事の進捗確認、及び **工程会議** 等への参加

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 56:58

28問中6問目

試験終了

■ 問6

第2章施工管理と施工計画から、**施工管理項目とその概要**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☐ 施工管理には、品質管理、原価管理、工程管理、安全管理、環境保全管理がある
- ☐ 品質管理、原価管理、工程管理、安全管理を現場の四大管理という
- ☐ 現場の四大管理に環境保全管理を加えた管理を現場の五大管理という
- ☐ 施工計画は、品質、原価、工程、安全、環境に関する対応策が盛り込まれ、その中でも重点管理項目に限定して記載することが求められる

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：施工計画は、品質、原価、工程、安全、環境に関する対応策が盛り込まれ、**総合的にバランスのとれたものである必要がある。**

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 56:32

28問中7問目

試験終了

■ 問7

第2章施工管理と施工計画から、**施工管理の手順**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☐ 施工管理を適切に行うには、計画(Plan)、実施(Do)、検討(Check)、処置(Action)の4段階サイクルを繰り返し実行することが基本である
- ☐ 第1段階は「計画」であり、計画を立てることである
- ☐ 第2段階は「実施」であり、計画に基づき作業を実施することである
- ☐ 第4段階は「処置」であり、是正処置のみでは対応できない場合は、第3段階の「検討」を修正し、スパイラルアップさせていく

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：第4段階においては是正処置のみでは対応できない場合は、**第1段階の「計画」**を修正し、再度PDCAを繰り返し適切な管理へとスパイラルアップさせていく。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 56:16

28問中8問目

試験終了

問8

第2章施工管理と施工計画から、**施工計画立案にあたり実施する事前調査**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

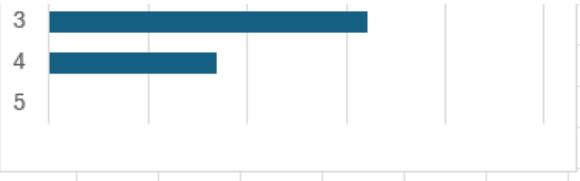
- ☐ 建設工事は、現場の自然現象や敷地条件、周辺の状況などについて、事前に調査する必要がある
- ☐ 事前調査による問題点の洗い出しが失敗と成功を分ける分岐点であるといえる
- ☐ 現場担当者は、工事着手前に契約内容を検討し理解しておくことが必要になるが、もし問題点があれば具体的に確認しておくことが大切である
- ☐ 現場の諸条件は工事ごとに異なるものであり、施工計画に重大な影響を及ぼすため、必ず現場において調査する

後で見直す

前の問題

次の問題

3	38	32%
4	20	17%
5	0	0%
総数	118	



正解：契約内容においてももし問題点があれば、**発注者と打合せを行い、その内容を口頭ではなく書面にて取り交わしておくこと**が大切である。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 59:35

28問中9問目

試験終了

■ 問9

第2章施工管理と施工計画から、**安全管理計画**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- 安全管理とは、工事施工にあたり、第三者や作業員の安全を確保するために行う管理のことである
- 安全管理は、間接的に工事目的物の出来形、品質及び工程に影響を与えるものである
- **ハインリッヒの法則によれば、1件の重大災害が発生する背景には、30件の軽微な事故と、300件のヒヤリハットがあるとされている**
- 現場の技能労働者が経験したヒヤリハットは、必ず原因を究明し、それを取り除くという強い心構えが大切である

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：ハインリッヒの法則によれば、1件の重大災害が発生する背景には、**29件**の軽微な事故と、300件のヒヤリハットがあるとされている。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 55:24

28問中10問目

試験終了

■ 問10

第2章施工管理と施工計画から、**建設副産物対策**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- 建設副産物とは、建設工事に伴い副次的に得られた全ての物品を言い、再生資源と廃棄物が含まれている
- 施工計画作成に当たっては、発生抑制、再利用の促進、適正処分の徹底を基本とした建設副産物対策を盛り込む必要がある
- 特定建設資材を用いた一定規模以上の建設工事について、その受注者等に対し、分別解体等及び再資源化等を行うことが義務付けられている
- 建設工事現場において産業廃棄物を自己運搬する場合、運搬車両に産業廃棄物を収集運搬している表示や書面の備え付けは不要である

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：産業廃棄物を自己運搬する場合には、**運搬車両に産業廃棄物を収集運搬している表示及び書面の備え付けが必要である。**

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 55:08

28問中11問目

試験終了

■ 問11

第2章施工管理と施工計画から、**施工要領書の基本と作り方**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- 施工要領書は、工事開始後に予想される施工上の問題についての対処法を明確にしたものである
- 施工要領書は、「安全に」「良いものを」「工期内に」「低コストで」について検討し作成する
- 施工要領書は、原則として工種毎に作成し、他の工事でも使用できるように一般事項も工夫して記載する
- 施工要領書の周知は、関係作業員全員参加のもとで説明し、それぞれの工種、職種別に説明する

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：施工要領書の作成上の注意事項として、**一般事項は省略するとされている。**

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 54:50

28問中12問目

試験終了

■ 問12

第3章工程管理から、**工程表の種類の特徴**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- 出来高累計曲線（S字カーブ）は曲線式工程表の一つで、横軸に工期、縦軸に出来高の累計などをとり、各作業の出来高比率を積み重ね、全体工事の出来高曲線で表す
- 工程管理曲線（バナナ曲線）とは、上方許容限界曲線と下方許容限界曲線からなり、実施工程曲線（出来高累計曲線）が許容限界内に入るかどうかを確認することで工事の進捗度合いをチェックするものである
- ネットワーク式工程表は、各作業（イベント）を矢印（アロー）で示し、開始や終了する結合点（アクティビティ）に○印をつける。結合点には番号を付け、作業順序に従ってネットワークを組む工程表である
- バーチャートは横線式工程表の一つで、縦軸に工事を構成する部分作業（部分工事）を、横軸に工期（日数）をとり、バー（棒）の長さで作業日数を現した工程図表である

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：ネットワーク式工程表は、各作業（**アクティビティ**）を矢印（アロー）で示し、開始や終了する結合点（**イベント**）に○印をつける。結合点には番号を付け、作業順序に従ってネットワークを組む工程表である。

登録送電線工事基幹技能者

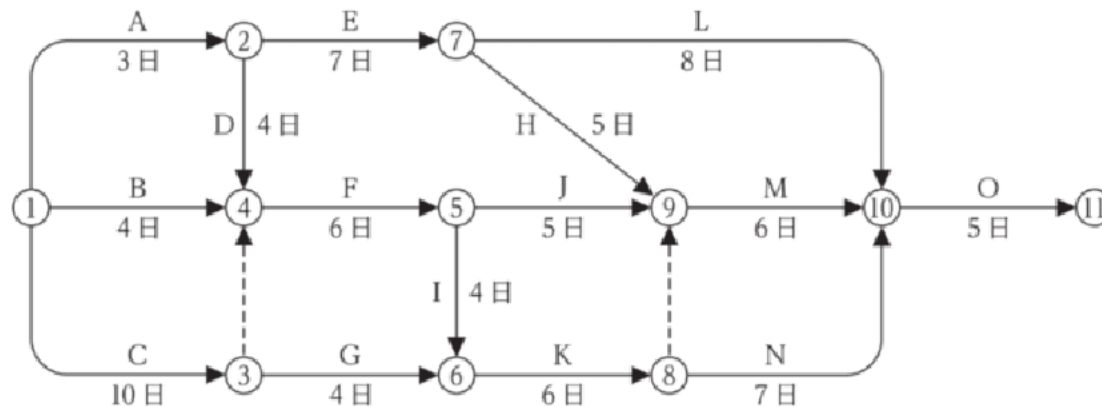
残り時間 54:34

28問中13問目

試験終了

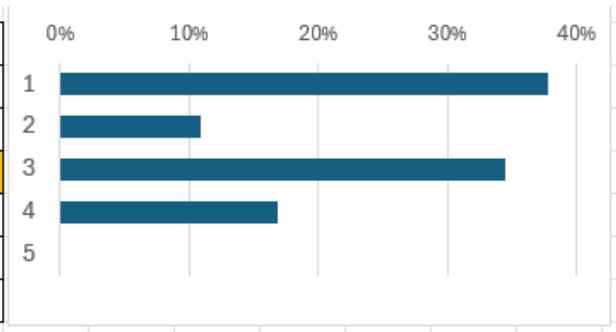
問13

第3章工程管理から、図に示すネットワーク式工程表において、クリティカルパスとして、正しいものを一つ選びなさい。
ただし、○内の数字はイベント番号、アルファベットは作業名、日数は所要日数を示す。



- ☐ ①→②→④→⑤→⑨→⑩→⑪
- ☐ ①→③→⑥→⑧→⑩→⑪
- ☒ ①→③→④→⑤→⑥→⑧→⑩→⑪
- ☐ ①→③→④→⑤→⑥→⑧→⑨→⑩→⑪

選択肢	回答数	比率
1	45	38%
2	13	11%
3	41	34%
4	20	17%
5	0	0%
総数	119	



正解：クリティカルパスは、最も日数を要する経路（最長経路）のことである。

この工程表では38日となる。全く余裕がないため重点的に管理する必要がある。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 54:19

28問中14問目

試験終了

■ 問14

第4章原価管理から、**原価管理**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- 各工事現場では、会社が求める利益を確保するために原価管理を行う必要がある
- 会社には、見積原価の管理、実行予算の作成、予算実績管理という大きく3つの原価管理のポイントがある
- 登録基幹技能者は、発注者から工事を受注するために見積原価の管理を重点的に行う必要がある
- 予算実績管理とは、実行予算と実績を比較しながら、予算内に収めるための施工管理のことである

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：登録基幹技能者が重点的に行う必要があるのは、見積原価の管理ではなく、**実行予算管理**である。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 54:04

28問中15問目

試験終了

■ 問15

第4章原価管理から、**工事費の構成**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☐ 直接工事費は、工事目的物を作るために直接必要とする費用のことであり、材料費、労務費、運搬費、外注費がある
- ☒ 共通仮設費は、現場の各種工事に共通の材料に要する費用のことであり、現場事務所や宿舍の費用、仮囲いにかかる費用などがある
- ☐ 機械工具経費は、現場の各種工事に共通して使用する機械工具損料、運転経費等のことである
- ☐ 一般管理費は、会社の継続運営に必要な本支店経費、金利、利益等のことである

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：共通仮設費は、現場の各種工事に共通の **仮設** に要する費用のことであり、現場事務所や宿舍の費用、仮囲いにかかる費用などがある。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 53:44

28問中16問目

試験終了

■ 問16

第5章品質管理から、**品質の基本的な考え方**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- 発注者は「品質を第一に」考えており、全員が「品質を第一」とした考え方で品質管理を推進する必要がある
- お客様を最重要視する考え方を「顧客志向」や「マーケットイン」等と言う
- 次の工程の人を「後工程」と呼び、「後工程はお客様」という考え方が重要である
- **品質は、プロセスや仕事のやり方、そして検査でつく込むものである**

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：品質が悪いということは、その結果を生み出しているプロセスに問題があるということであり、
「品質は工程（プロセス）でつくり込む、検査ではつukれない」という考え方が重要である。

登録送電線工事基幹技能者

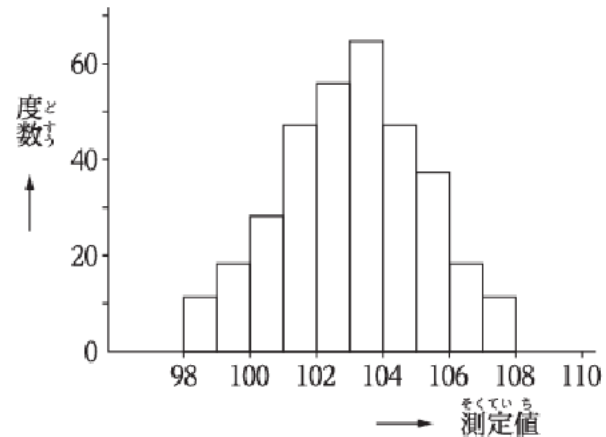
残り時間 53:30

28問中17問目

試験終了

問17

第5章品質管理から、QC7つ道具のうち品質管理に用いる次の図表の名称として、正しいものを一つ選びなさい。



- ☐ 特性要因図
- ☐ パレート図
- ☐ 管理図
- ☒ ヒストグラム

正解：ヒストグラム は、データの全体像、特に「データの散らばり具合（分布）」を一目で把握するための非常に強力なグラフである。

後で見直す

前の問題

次の問題

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 53:14

28問中18問目

試験終了

■ 問18

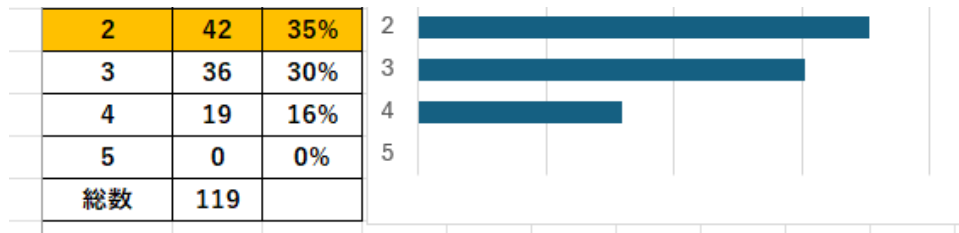
第6章安全管理から、安全管理に関して登録基幹技能者に求められる事項に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☐ 最近の建設現場で発生する死亡災害は、過去に発生したものと似た災害ばかりであることを理解する
- ☒ 注意力に限界のある人間であっても、安全指示「足元注意」は一定の効果があることを理解する
- ☐ 外国人労働者の安全の確保については、登録基幹技能者がリーダーシップを発揮することが求められている
- ☐ 登録基幹技能者は、元請業者の安全管理を実践面でサポートする必要がある

後で見直す

前の問題

次の問題



正解：注意力に限界のある人間に対して、安全指示「足元注意」は効果がないことを理解する。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 52:51

28問中19問目

試験終了

問19

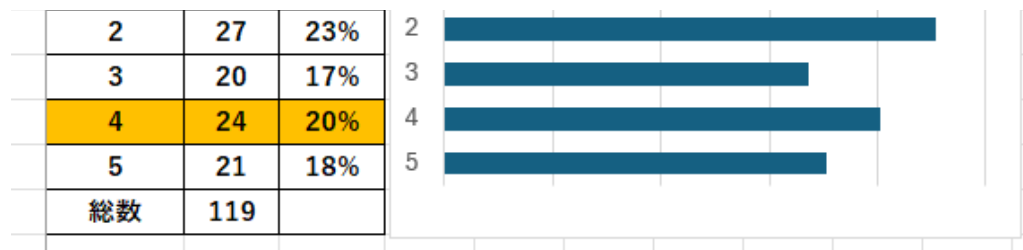
第6章安全管理から、労働安全衛生法で定める「悪天候等」に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☒ 強風とは、10分間の平均風速が毎分10メートル以上の風をいう
- ☐ 大雨とは、1回の降雨量が50ミリメートル以上の雨をいう
- ☐ 大雪とは、1回の降雪量が25センチメートル以上の雪をいう
- ☒ 暴風とは、瞬間風速が毎秒20メートルを超える風をいう
- ☐ 中震以上の地震とは、震度4以上の地震をいう

後で見直す

前の問題

次の問題



正解：労働安全衛生法で定める「悪天候等」のうち 強風とは、10分間の平均風速が**毎秒**10メートル以上の風をいう。

正解：労働安全衛生法で定める「悪天候等」のうち 暴風とは、瞬間風速が**毎秒30メートル**を超える風をいう。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 52:38

28問中20問目

試験終了

問20

第6章安全管理から、**労働安全衛生法で定める安全衛生責任者**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☒ 統括安全衛生責任者は、統括安全衛生責任者を選任すべき事業者以外の請負人と協議し安全衛生責任者を選任しなければならない
- ☐ 統括安全衛生責任者を選任すべき事業者以外の請負人の安全衛生責任者は、統括安全衛生責任者との連絡等を行わなければならない
- ☐ 安全衛生責任者には現場の職長が選任されることが多いが、その場合は、職長としての職務だけではなく、安全衛生責任者としての職務も的確に遂行する必要がある
- ☐ 安全衛生責任者は、管理監督者として適切に職務を励行することが肝要である

後で見直す

前の問題

次の問題

2	38	32%
3	21	18%
4	31	26%
5	0	0%
総数	119	

正解：労働安全衛生法第16条では、「**統括安全衛生責任者を選任すべき事業者以外の請負人は、安全衛生責任者を選任し、**その者に統括安全衛生責任者と連絡等を行わなければならない」と定めている。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 52:21

28問中21問目

試験終了

問21

第6章安全管理から、法で定められた作業員の遵守義務のうち、危険行動の禁止義務に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☒ 高さや深さが1.3mを超える場所は、昇降設備を使って昇り降りしなければならない
- ☐ 関係者以外立入禁止と定められている場所には、関係者以外、誰も勝手に入ることができない
- ☐ 高さ3mの高所からものを投げ落とすことは、投げ落としても危険がない設備でない限り、禁止である
- ☐ 可燃性の粉塵や火薬等があり、爆発、火災の恐れがある場所では、発火源となる機械、火気の使用は厳禁である
- ☐ 火を使った時には、火の始末を確実に行う。また、定められた場所以外での喫煙は禁止である

後で見直す

前の問題

次の問題

3	72	61%
4	0	0%
5	0	0%
総数	119	

正解：高さや深さが **1.5 m** を超える場所は、昇降設備を使って昇り降りしなければならない。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 52:03

28問中22問目

試験終了

■ 問22

第6章安全管理から、**リスクアセスメント**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- リスクアセスメントとは、危険の事前評価の意味で、作業に伴う危険性と有害性に重みを付けて評価し、評価に応じて危険の低減対策をすることである
- 作業を始める前に（計画段階で）、その作業に潜むリスク（危険なもの、有害なもの）を洗い出す
- 洗い出したリスクそれぞれについて、リスクの大きさを予想（見積り）する。（どの程度の頻度で発生し、どのくらいのケガ（死亡）や病気になるのかなどを評価）
- 予想したリスクそれぞれについて、大きいものから順に評価し、許容できないリスクは特定し周知する

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：予想したリスクそれぞれについて、大きなものから順に評価し、許容できないリスクは**すべて対策を立てる**。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 51:47

28問中23問目

試験終了

■ 問23

第6章安全管理から、**職場における熱中症対策**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- 作業からの離脱：異変を感じた場合、直ちに作業を中止し、涼しい場所へ移動する
- 身体の冷却：衣服を緩め、首、脇の下、鼠径部などを氷嚢や保冷材で冷やす
- 水分・塩分の摂取：意識がある場合に限り、経口補水液等を与え、見守る
- 医師の診断・処置：症状が改善しない場合や、初期段階でも必要と判断される場合には、医師の診察を受ける
- 119番通報の基準、救急搬送先（近隣病院）の所在地・連絡先情報の整備

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：水分・塩分の摂取： **意識があり、自力で飲める場合に限り**、経口補水液等を与え、見守る。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 51:26

28問中24問目

試験終了

■ 問24

第7章新しい技術から、**労働生産性の向上策**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☐ I C T（情報通信技術）の活用が必要
- ☒ 規格仕様の細分化が必要
- ☐ 施工時期の平準化が必要
- ☐ 新技術、新工法の導入が必要

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：規格仕様の **標準化** が必要

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 51:02

28問中25問目

試験終了

■ 問25

送電線工事に用いられる**新しい技術の事例紹介**から**選択問題**を出題します。

「問26：鉄塔基礎工事」「問27：鉄塔組立工事」「問28：架線工事」の三つの技術開発事例に関する問題から、いずれか一つを選択して回答しなさい。

なお、選択した問題以外に回答しても、採点対象にはなりません。

- ☐ 問26：鉄塔基礎工事（鉄塔基礎工事におけるバランスリフト工法の開発）
- ☐ 問27：鉄塔組立工事（無支線外付け台棒の開発）
- ☐ 問28：架線工事（きやりっじ（架空線上運搬機）の開発）

後で見直す

前の問題

次の問題

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 50:43

28問中26問目

試験終了

■ 問26

第7章新しい技術から、**鉄塔基礎工事における「バランスリフト工法の開発」**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- ☐ 狭隘な基礎工事での過酷な作業環境を改善し、作業の省力化を図るために開発された
- ☐ 掘削作業において、動作に連動して工具重量を自動アシストし、人体にかかる負荷を軽減する
- ☐ 既存の昇降アシスト装置に加え、新たな機器を製作・拡張し導入した
- ☐ 資機材工具重量の大部分をアシストし、必要最低限の労力で作業可能となる

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：既存の昇降アシスト装置に加え、**プログラム変更のみで現場導入を実現した**。新たな機器製作は不要である。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 50:27

28問中27問目

試験終了

■ 問27

第7章新しい技術から、**鉄塔組立工事における「無支線外付け台棒の開発」**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- 並走する送電線があり、一般的な腕金工法では施工不可となる限られた作業エリアにおいても腕金取替が可能となる新工法である
- 実規模試験と立体解析により、装置および鉄塔部材各部に発生する応力が同等であることを確認した
- **施工時に鉄塔部材に加わる荷重を三次元の立体解析で鉄塔強度検討ができる手法を確立した**
- 施工者の意見を踏まえ、装置自体への吊上げ用金具の取付や、台棒吊工具の設置といった改良を加えた

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：立体解析により求めた荷重を用いて、**2次元の鉄塔電算設計にて**鉄塔強度検討ができる手法を確立した。

登録送電線工事基幹技能者

残り時間 50:07

28問中28問目

試験終了

■ 問28

第7章新しい技術から、**架線工事における「きやりっじ（架空線上運搬機）の開発」**に関する記述として、最も不適当なものを一つ選びなさい。

- 従来の宙乗り作業では、支持点が高い方から低い方へのみしか施工できず、登り区間での労力負担が大きかったことが開発の背景にある
- 全体構造としてはシンプルなI型の構造であり、電工が宙乗器から降りずに、直接手が届く範囲で作業可能である
- **電線のカテナリ角の変動に対応するため、スペーサ吊部の重心を状況に応じて斜めに傾ける構造とした**
- 宙乗機の乗り出し方向の制限をなくすことで、山間部へのヘリ運搬等の手間が削減し、工事の省力化に寄与できる

後で見直す

前の問題

次の問題

正解：電線のカテナリ角に対応するため、スペーサ吊部の重心は**常に真下へ向くヒンジ**構造とした。